

日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA

第218回定期演奏会
The 218th Regular Concert



2016年7月24日[日]
午後2時開演

よみうり大手町ホール
YOMIURI OTEMACHI HALL

演出：久本桂子
構成：桜井智永
舞台監督：中島隆

主催／特定非営利活動法人日本音楽集団

助成／平成28年度文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)

後援／公益財団法人日本伝統文化振興財団
JAPAN TRADITIONAL CULTURES FOUNDATION



■ 日本音楽集団： <http://www.promusica.or.jp/>

E-mail： office@promusica.or.jp



Facebookファンページ：[promusicanipponia](https://www.facebook.com/promusicanipponia)

和楽器 和楽器 Concerto

今回の第218回定期演奏会では、これまでの当団の1000曲を超える委嘱作品の中から、楽器の特性を生かし、それぞれの作曲家が思いを込めた5つの協奏曲の作品で構成いたしました。ソリストは長年日本音楽集団に在籍し

それぞれが各分野でも第一線で活躍を続ける、琵琶 田原順子、十七絃 宮越圭子、尺八 三橋貴風、小鼓 尾崎太一、笛 西川浩平、三味線 簗田司郎が務めます。

協奏曲においての独奏楽器と邦楽器群のお互いの役割、そしてそれぞれの作品から生み出される対立と調和、共存、拮抗を感じ、ご堪能いただきたいと思います。

1、琵琶協奏曲～校倉によせる幻想～

長澤勝俊作曲(1977年)

独奏 琵琶：田原順子 タブラ：黒坂昇(助演)

[笛]あかる潤 [尺八Ⅰ]田野村聡 [尺八Ⅱ]大賀悠司

[三味線]守啓伊子 [琵琶]藤高理恵子

[箏Ⅰ]三宅礼子 [箏Ⅱ]石井香奈 [十七絃]久本桂子

[打楽器]仙堂新太郎

[指揮]稲田康

校倉づくりで知られる正倉院の中にある五絃の琵琶からヒントを得た。琵琶の祖先はとくくペルシャとも、またインドとも言われている。私はこの琵琶という古い歴史的背景を持つ楽器に思いをよせ、現在の筑前琵琶の音を主役にし、バックに各種の邦楽器群と、インドの打楽器タブラ・パヤを配し、自由な幻想を練りひろげてみた。終わり近くに独奏琵琶とタブラのカデンツもはさまれている。1977年、山田美喜子さんのリサイタルの時委嘱された作品。

(長澤勝俊 第56回定期演奏会プログラムより)

2、十七絃と邦楽器群のための協奏曲

秋岸寛久作曲(2008年)

独奏十七絃：宮越圭子

[笛]遠藤悠紀 [尺八Ⅰ]原郷隆 [尺八Ⅱ]田野村聡

[三味線]穂積大志 [琵琶]藤高理恵子

[二十絃Ⅰ]桜井智永 [二十絃Ⅱ]丸岡映美 [十七絃]岡山亮子

[打楽器]盧慶順 島村聖香 山内利一

[指揮]苔米地英一

十七絃は、合奏において低音を補うために開発された楽器ですが、その能力の高さから独奏楽器としても活躍してきました。十七絃が人を引きつけるのはやはりその深く伸びのある音色と多彩な表現力。この作品にも重く迫力のあるサウンドからコミカルな表情まで十七絃の魅力満載です。

打楽器のリズムに乗って軽快に進行する第一楽章、個と個、個と群が自由に対話を交わす第二楽章、やや複雑なリズムでアンサンブルを楽しむ第三楽章。ソロと邦楽器群の対立と協調によって生み出される空間をお楽しみください。

(秋岸寛久)

[琵琶]

田原順子



平家物語を代表とする伝統的な語り物は勿論、多くの創作語り物を作詞・作曲し演奏している。また数多くの現代音楽を演奏し、現代人の感覚にあった琵琶音楽を模索し続けている。故・山田美喜子、故・山崎旭萃(人間国宝)両師の元で筑前琵琶を習得。1982年、琵琶楽コンクール第一位。文部大臣奨励賞、日本放送協会会長賞、等受賞。2006年2月、フランスにてローラン・マルタン氏の新曲「一所懸命」を初演。2014年パリにて同曲をCD録音。2007年2～3月、ニューヨークのマーキン・コンサート・ホールでリサイタルを行う。

[十七絃]

宮越圭子



1974年、正派音楽院研究科卒、日本音楽集団入団。以後海外公演に数多く参加する他、三木稔のオペラ・猿之助スーパー歌舞伎等の舞台音楽、「邦楽のひととき」等のラジオ番組、作曲家のCD録音などへの参加も多数。豊かな音楽性や表現力、確かなテクニックには定評があり、アンサンブルの十七絃奏者及びソリストとして広く実力を認められている。正派音楽院助教授、日本音楽集団団員、トリオ響同人。2005年「宮越圭子十七絃の世界」をリリース。



[尺八]
三橋貴風

尺八の古典曲を佐々木操風、岡本竹外氏に師事。1980年の第一回リサイタルにより文化庁芸術祭優秀賞、文化庁芸術祭賞(1989)、ソロCD「竹林寄譚」による文化庁芸術作品賞(1991)、文化庁芸術祭大賞(2009)、文化庁芸術選奨(2010)、紫綬褒章(2011)等を受賞。武満徹作曲「ノヴェンバー・ステップス」のソリストとして、サイトウキネン・オーケストラ、BBCフィルハーモニー、フランス国立リヨンオーケストラ等と36回共演。新尺八NOBLE管とうちなー(沖縄)尺八を開発。大阪音楽大学客員教授。



[笛]
西川浩平

第1回オーストラリア国際フルートコンクール3位入賞。大阪フィルハーモニー交響楽団フルート奏者として活動後、日本の横笛にて日本音楽集団に入団し現在に至る。日本舞踊公演に従事すると共に、多くの現代作品の初演に携わる。著書「歌舞伎音楽を知る」(和楽器の世界)を出版。2013年度より科研費、2015年度、Asian Cultural Council 助成を受け、マレーシア、台湾の少数民族文化の研究に赴いている。



[小鼓]
尾崎太一

囃子を四世藤舎呂船師、田中伝一郎師に師事。笛を寶山左衛門師、三味線を柗屋五三吉師に師事。東京藝術大学在籍中に安宅賞を受賞。1970年、藤舎流囃子方、藤舎華風を襲名。また日本音楽集団に打楽器奏者として入団。1981年から6年間、米国ハワイ大学の招聘により歌舞伎囃子の講師として指導。2011年、(社)日本伝統芸術伝承協会理事に就任。2014年、日本音楽集団代表に就任。



[三味線]
簗田司郎

芸名：柗屋五司郎(きねやごしろう) 柗屋五三吉(杉浦弘和)氏に師事。長唄東音会、日本音楽集団、如楽会に所属。簗里会主宰。2001年昭和音楽大学講師。2002年東京芸術大学非常勤講師。2008年九州大学非常勤講師。2006年松江観光大使に就任。1994年ニューヨークフィル定期演奏会に三木稔作曲「急の曲」で出演。現在まで海外公演多数。長山洋子のCD収録曲「長江舟唄」やプロミスCMソングなど、数多くの作曲も手がける。

3、ロータス・ポエム

独奏尺八と邦楽器群のための 三木稔作曲(1994年)

独奏尺八：三橋貴風

[笛]新保有生 [尺八]竹井誠

[細棹三味線]守啓伊子 [太棹三味線]山崎千鶴子 [琵琶]久保田晶子

[二十絃I]三宅礼子 [二十絃II]桜井智永 [十七絃]久本桂子

[打楽器]尾崎太一 島村聖香

[指揮]稲田康

蓮は極楽浄土に似合う。第二次世界大戦から半世紀が経った。日米とも沢山の人が犠牲になった。当時少年ながら、あの地獄を体験した私から、その人たちが悼む気持ちがいつまでも離れない。この曲も、その追悼と永遠の平和願望に添っている。独奏尺八と邦楽器群の協奏曲だが、通常のように互いに拮抗することはなく、慎み深く共存する。情緒的に言えば、蓮の台を訪れた尺八が、時間のない時を過ごし、ほのかな夢を共にして去っていく、というような構図を思っ書いて。1994年ニューヨーク・フィルと日本音楽集団による《急の曲》米初演の機会に、共同委嘱者アイオワ大学で初演。

(三木稔 第136回定期演奏会プログラムより)

……休憩……

4、四拍子協奏 肥後一郎作曲(1999年)

笛：西川浩平 小鼓：尾崎太一

[大鼓]盧慶順 [太鼓]山内利一

[箏I]桜井智永 [箏II]久本桂子 [二十絃I]山田明美 [二十絃II]三宅礼子

[十七絃I]宮越圭子 [十七絃II]丸岡映美

伝統楽器を照射する光源は室町期に有る。光源とは澎湃として湧き上がった世俗音楽の輝きのことである。不思議なこととしか言いがたいのだが、形而上的な思考操作を可能とする言語体系さえ整っていなかったこの時代に、瘧慄が出るような抽象性の漲る演劇が成立した。能楽のことである。能楽に用いられる四つの楽器、四拍子(能管、小鼓、大鼓、太鼓)を能舞台という特殊な柄から拉致し、異質の野に放牧してみたいという念願がかなった。四拍子は箏群とのありきたりな協奏を夢見ない。箏群は四拍子の伴奏を担当しない。両者は室町期に放ち始めたその輝きを、艶めかしい仕草を、ことさらに誇りながら互いに拮抗して音楽する。

(肥後一郎 第155回定期演奏会 初演プログラムより)

5、三味線協奏曲 長澤勝俊作曲(1967年)

独奏 三味線：簗田司郎

[細棹三味線]穂積大志 [太棹三味線]山崎千鶴子

[笛]遠藤悠紀 [尺八I]竹井誠 [尺八II]原郷隆

[琵琶]久保田晶子 藤高理恵子

[箏I]桜井智永 石井香奈 [箏II]久本桂子 日原暢子(助演)

[十七絃]丸岡映美 岡山亮子

[打楽器]仙堂新太郎 山内利一

[指揮]田村拓男

1967年に作曲され、同年日本音楽集団第6回定期演奏会で「三絃と日本楽器によるディヴェロップメント」という曲名で初演され、後に「三味線協奏曲」に曲名が改定されました。この曲は三味線の持つ様々な魅力を、独奏三味線と他の日本の楽器群との対比でとらえた作品です。

第一楽章は細棹三味線で華やかに、第二楽章は細棹の駒と撥を変えて沖縄の三味線風に、第三楽章は低音三味線で民謡三味線風に作られています。今回は、細棹三味線と太棹三味線を1名ずつ加えてさらに華やかに構成致しました。

【正会員】 (団員) (楽器別・五十音順)

笛
 あか潤 藤悠紀 新保有生 竹井誠平 西川浩平 (尺八)
笙
 三浦はな
箏
 西原祐二 三浦元則
尺八
 大賀悠司 阪口夕山 田野村聡 原郷隆 藤崎重康 (笛)

田原順子
 藤高理恵

箏
 石井香奈子 伊藤麻衣子 岡山亮子 久東寿子 熊沢栄利 佐藤智里美 島崎春美 城ヶ崎美保 彦坂恵美 久本桂子 丸岡映礼 三宅越明 山田明美 渡辺正

打楽器
 白杵美智代 尾崎太一 島村聖香 仙堂新太郎 多田恵子 山内利一 盧慶順

指揮
 稲田康男 田村拓男 苫米地英一

作曲
 秋岸寛久 川崎絵都 篠田大介 高橋久美子 福嶋頼秀

楽器・舞台
 中島隆

名誉代表
 田村拓男

代表
 尾崎太一

副代表
 米澤浩

運営委員
 田野村聡 原郷隆 久本桂子 元永大志 山崎千鶴子

監事
 田村拓男 三田村典昭

アートマネージメント
 大西愛子 ※

事務局
 中山美穂子

永久名誉団員
 長澤勝俊

2016年6月現在、※は休団中

● 賛助会員へのお誘い ●

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動の定着と発展を目指したく、ご協力をお願い申し上げます。

年間 個人会員10,000円(一口以上) 法人会員30,000円(一口以上)

【賛助会員】(口数・五十音順)

[法人会員]

青和観光株式会社 代表取締役 青木 茂
 日凸運送株式会社
 (有)邦楽ジャーナル 代表取締役 田中 隆文
 株式会社青和運輸
 神戸レコードクラブ/宅音便(有限会社 文)

[個人会員]

山本福八
 *
 池田紫真 榮
 江西 縁
 柿崎やよい

小池節子
 佐藤裕美
 佐藤玲子
 添川浩史
 辻 淑子

東谷 仁毅
 友杉 優子
 富山 保之徳
 堀 保一

元永明希
 元永美代子
 森 繁美
 森 博明
 山本友英

その他4名
 (2016年6月現在)



株式会社 琴光堂

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷2-19-15

TEL03(3792) 8481 FAX03(3792) 8437 URL: <http://kinko-do.com> E-mail: tokyo@kinko-do.com

特定非営利活動法人

日本音楽集団